



令和5年度

亀山市立川崎小学校

研究デザイン



教育大綱 基本方針ー1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。
- (5) 研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を取り入れ、効果的かつ主体的に資質向上をすすめる。

1 川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

2 学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」

- ・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる
- ・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

- ① 「川崎小学校十か条」を実行する子
 - ② 自ら進んで学習し、思いを伝える子
 - ③ 違いを認め、受け入れる子
 - ④ 心身共に健康で、命を大切にする子
 - ⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にする子
- ☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

- ①児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員
 - ②創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員
 - ③開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員
- ☆明るく、仲良く、元気よく☆

3 研究主題及び研究領域

「一人ひとりの子に『深い学び』を」 ～「主体的・対話的」な授業づくり～

研究領域：生活科、総合的な学習の時間、自立活動

4 研究主題設定の理由

本校の教員は、様々な体験や経験を通して、子どもたちに学ぶ喜びやおもしろさに気づいてほしいという思いをもち、「深い学び」を目指して、日々教育活動を行っている。魅力のある地域教材に恵まれ、協力的で頼れる地域で育つ本校の子どもたちは、地域に愛されている存在である。また、人懐っこく、素直であり、多くの子どもが学習に対して一生懸命取り組んでいる。

しかしながら、学習に対する主体性や自分の思いや考えを表現する力は、十分に育っているとはいえず、自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていく「深い学び」には、まだまだ至っていない。また、教員側においても、魅力ある地域教材を学習活動にうまく組み込めていないという課題があった。

そこで、昨年度から研究領域を生活科、総合的な学習の時間、自立活動とし、改めて地域教材を整理し、その教材のもつ価値を再認識しながら、単元計画を練り、地域のヒト・モノ・コトとの出会いや対話を経る中で探究的な学習を目指してきた。

その結果、子どもたちも、教員も、地域の良さを再確認することができた。また、それぞれの学年で求めたい児童の対話の姿を共有したことで、対話の姿について、系統性を意識しながら、学校全体として対話の質を高めることができた。一方で、教員の指導計画や思いに子どもを乗せすぎた面が否めず、子どもの学びに向かう意欲を十分に発揮させられなかったという課題が明らかになった。

また、学習の基盤となる資質・能力については、それぞれの学年が、その系統性を十分に意識して取り組んできたとは言えず、つけたい力の積み上げの面で取組の弱さを感じられた。

そこで、今年度は、研究領域は昨年度同様とし、研究主題を「一人ひとりの子に深い学びを」、サブテーマを「～主体的・対話的な授業づくり～」に設定した。子どもの主体性や思考の流れを大切にしたい課題追及を通して、「深い学び」を実現させていく。

また、これまでに取り組んできた地域関連学習を通してできた、子どもたちと地域の方との深いつながりの中で、教員の子どもにさせたい活動と、子どもがやりたい活動をうまくマッチさせながら、子どもが主体的に活動したりわくわく感を持ったりして取り組むことができる学習活動を設定していく。

また、学習の基盤となる資質・能力を意識して、子どもの資質能力の現状を把握する。その際、特に①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 における各学年で到達すべき子どもの姿を整理し、そこを強く意識した活動を意図的に組み入れることで、系統性をもってつけたい力を積み上げていくことができる。と考える。

「やってみたい」「話したい」「伝えたい」「聞きたい」という思いをもって主体的に学ぶ子どもの姿につながるような単元構想及び学習活動の在り方を模索することと、つけたい力の系統性を整理することを通して、深い学びとなるよう研修を進めていきたい。

※「深い学び」とは

子どもたちが主体的・対話的な学習活動を通して、自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていくこと。



5 研究構想図

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成

研究主題

「一人ひとりの子に『深い学び』を」
～「主体的・対話的」な授業づくり～

中部中学校区研修主題
主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり
～学びをつなぎ、高め合う子の育成～

主体的・対話的な授業づくり ～4つの観点と5つの要素～

1 単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方



- ・子どもたちにとって、魅力的な学習活動や指導展開の工夫
- ・学習の目的・スケジュール（計画）・学習方法等、学習の見通しの提示
- ・**つきたい力を意識し**、「めあて」と「ふり返り」を相対させた授業展開の工夫。

→ア「興味関心」「疑問」「困り感」等を持つ場を設定しているか。

2 よりよい対話の在り方

- ・教材の特徴を生かした言語活動（対話）の位置づけとペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動の実施
- ・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面の設定
- ・**求めたい対話の姿**を、低・中・高学年別に設定し対話活動の時に授業者が追求していく。

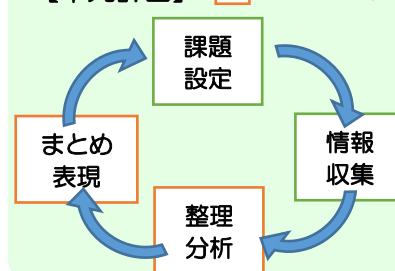
- イ 「どのように考えたか」を話す・書く場を設定しているか。
- ウ 理由と根拠を入れて話す・書く場を設定しているか。
- エ「共通点」と「相違点」を考えながら聞く・読む場を設定しているか。

3 学習評価

- ・学習のねらいに沿った視点の提示
- ・子どもの学びの変容の把握と次の学習や指導への活用

→オ 「だから」「つまり」「これらのことから」などの言葉を使ってまとめる（話す・書く）場を設定しているか。

【単元計画】 □：対話を重視



4 つきたい力の整理

- ・学習の基盤となる資質・能力について、子どもの現状を把握し、整理する。
特に①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 における各学年の到達する姿を整理する。

学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・「ぐんぐんタイム」の実施 ・「eライブラリ」の活用 ・自主学習ノート ・家庭学習の習慣化
- ・読書活動の充実

なかまづくり 子ども理解と子ども支援

- ・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり ・子ども理解と支援の充実 ・学習規律の徹底

6 研究内容

主体的・対話的な授業づくり

(1)「かめやま授業デザインスタンダード」の実践

「かめやま授業デザインスタンダード」の取組を継続的に活用した授業を実践し、授業改善を図るものとする。

(2)豊富な地域教材

能褒野開拓団・かんこおどり・歴史遺産（能褒野神社や峯城、飛行場跡など）・地野菜（さといも、しそなど）など、魅力あふれる地域教材が豊富である。これらを用いた地域学習を生活科、総合的な学習の時間、自立活動で進める。

(3)授業研究の観点

主体的・対話的な授業づくりに向けて下記の3つの観点を大切にし単元計画を工夫する。単元計画では、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経ることにより、子どもの探究的な資質能力の育成を図るものとする。

① 単元（本時）の導入と課題意識の持たせ方

- ・既習経験、興味関心等に加え、教材の特徴を生かし、子どもたちに魅力的な学習活動や指導展開の工夫を行う。
- ・見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、子どもに学習の目的・計画・学習方法等をつかませる。
- ・つけたい力を意識し、「めあて」と「ふり返し」を相対させた授業展開を工夫する。

② よりよい対話の在り方

- ・発達段階に応じた「学習の基盤となる資質・能力」を意識し、言語活動（対話）を単元の中に位置づける。ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動を行う。
- ・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面を意識的に設定する。
- ・求めたい対話の姿を低・中・高学年別に設定し、対話活動の時に指導者が追求していく。

- | | |
|---|---------------------------|
| 1、2年生に求めたい対話の姿：・相手に向けて、自分の考えをはっきりと話す | ・相手の話を受けて、自分の考えと比べて聞く |
| 3、4年生に求めたい対話の姿：・相手の話している内容に対して、考えや思いを持ち、理由付けをして話す | ・話題を理解して、自分の考えと比較しながら聞く |
| 5、6年生に求めたい対話の姿：・根拠をもとに、理由付けをして、自分の考えを話す | ・様々な意見を、根拠や理由によって分類しながら聞く |



③ 学習評価

- ・学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価として「ふり返し」を書かせる。また、「ふり返し」によって、教師自身が子どもの学びの変容をとらえ、次の学習や指導に生かしていく。

(4)つけたい力の整理

総合的な学習の時間、生活科、自立活動の単元計画の中で、学習の基盤となる資質能力について、系統性を意識してつけたい力を整理していく。

学びの土台づくり

(1)基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・自主学習ノート…課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。
- ・家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書活動の充実…朝の読書や読書チャレンジ、ファミリー読書リレー等の読書活動を推進する。
- ・「ぐんぐんタイム」の実施と「e ライブラリ」の活用

月に1回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「e ライブラリ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2)なかまづくり・子ども理解と子ども支援

Q-Uの実施と結果共有に基づくアセスメントと対応策、なかまづくり、学級づくり、SST、人権教育、いじめを見逃さない学校づくり、道徳の授業づくりなどの研修を行い、なかまづくりや子ども理解・支援につなげる。